

民生委員児童委員に向けた

News letter M I N S E I

Vol.14 2025.10

箱根町民児協 会長 村上 ちず子さん



人とのつながりは、とても大事なこと

「かっぱ天国」の名の由来は、太古の昔、この辺りを川が流れていたことから命名。写真左下の湯口(吐水口)も、かっぱの口をイメージした遊び心のあるデザイン。

日本屈指の観光地・箱根に店を構えて

かつては東海道の宿場町として、明治時代以降は有名な温泉地として知られてきた箱根。雄大な自然と歴史が織りなす日本有数の観光地です。

そんな観光地の入口・箱根湯本駅前です。土産物を扱う商店に嫁いできた村上さん。ずっと箱根で暮らしてきたので、昔からいる人たちのことは互いによく知っています。駅前の商店は、観光客だけでなく、通りがかった近所の人にも立ち寄る場所として、地域の情報など、たくさん話せて楽しい思い出があります。高齢者も訪れて、高齢者との関わり方や、距離感の取り方などを学ぶ機会にもなりました。

やがて同じ通りで飲食店を始め、土産物屋は親族が引き継ぐことになりました。飲食店を忙しく切り盛りするかたわら、さらに、ご主人が温泉施

設「箱根湯本温泉かっぱ天国」の経営を手掛けることに。施設は箱根湯本駅の目の前の高台にあり、客室や露天風呂、足湯からは箱根湯本の街並みや箱根登山鉄道の往来などを見ることが出来ます。テレビ番組にも取り上げられた人気の施設ですが、折からの人手不足のため、村上さんは、午前中は温泉施設で仕事をし、昼過ぎからは飲食店で働く、大変忙しい毎日を過ごしています。

民生委員・児童委員になったきっかけ

湯本地区は古くから店を営む住民が多く、忙しい経営者は、自治会などの地域活動に参加できていませんでした。村上さんは嫁いできたお嫁さんとして比較的自由に動けたので、自治会の清掃等に参加していたところ、自治会長から民生委員をやってほしいと頼まれました。平成10年に委嘱され、現在9期目。27年間活動しています。



「始めたばかりのころは、先輩民生委員の皆さんが本当に良くしてくださって、人とのつながりがすごく勉強になりました」と話す村上さん。退任されてからもつながっている方もいて、今でも一緒に遊びに出かけることもあるそうです。

当時、町の民生委員には仕事を持たない専業主婦が多く、決められた定例会の日には必ず出るように言われるなか、村上さんは、お店の人をお願いして出席していたそうです。

やがて、委員活動にも慣れてきた令和元年に、町民児協の会長になりました。水曜日を定例会とし、店も定休日になっています。仕事や育児、介護をしながらの委員には「定例会に出れば全体のこと分かる」とは言っていますが、出席できなくても、自分の受け持ち地域はちゃんと回って見てくれているので、強制はしていません。

子(孫)育てしながら、働きながらの活動

一緒に店で働く娘さんの子育て期には、村上さんが早朝から仕込みのために店に出て、夕方は家に戻って孫の世話をしてから再び店に出るなど、親子で協力しながらも大変忙しい毎日だったそうです。それでも、一緒に働いていた親族や店の人に助けてもらい何とか乗り越えてきました。

最近、店のピーク時間の隙間に地域を回り、何かあった時にすぐにつながれるよう、日頃から住民との関わりを大切にしています。店で培ったコミュニケーションが役立っているそうです。

研修などで仕事の穴埋めが必要な場合は、娘さんらに協力してもらいます。そのためにも、普段

から互いの予定の共有が重要とのことでした。

退任後も地域とつながり続ける

令和7年11月末で退任する村上さん。退任後も町の中での役割はほとんど変わらないと考えています。

ここ数年、箱根では旅行者だけでなく、労働者としての外国人も増えています。一方、古くからマッサージや芸者などを生業とする人がおり、中には事情があって箱根まで流れ着いた人もいます。長く働き続けてくれたその人たちが、独居の高齢者になってきています。そういった人たちの情報は、委員を退任しても人づてに自分の耳にも入ると思われるので、「変わらず必要な資源への橋渡しをしていくことになるでしょう」と語ります。

退任後は、今まで委員活動で出かけるたびに店を守ってくれていた娘さんとバトンタッチし、子ども会などの地域の活動に出る娘さんの代わりに店に残ってサポートをするそうです。

「これからも店で働きながら、旅行に行ったりと夫婦2人の時間も大切にしたい。そのためには元気でいなくちゃ」と、笑顔で語る村上さんでした。



村上さんが働く、箱根湯本駅前通りにある飲食店「いこね」。今では蕎麦と釜飯の店ですが、昔は甘味処でした。

村上さんから“ながら”でがんばる民生委員児童委員の皆さんへ

仕事、育児、介護等をしながらの委員活動は大変ですね。でも、人とのつながりはとても大事。民生委員活動をやっていれば、今すぐでなくても先々役立つことがあるので、無駄になることはありません。自分が生きていくためにも助けになるから、大変だとは思いますが、どうか続けてください。

神奈川県社協
民生委員児童委員会
ホームページ



身近な地域で活動する民生委員児童委員のことを多くの方に知っていただけるよう、30秒のPR動画を作成しました。ぜひご覧ください！

* 神奈川県社協 民生委員児童委員会部会は、県・政令市の民児協が参画する協議体です。様々な地域性や、きめ細やかな幅広い委員活動から得る多様な情報や知恵を集結し、県・政令市の枠を越えて交流・研修情報収集・意見具申など、スケールメリットを活かした協働事業の運営を行っています。

* このニュースレターは、神奈川県内の民生委員児童委員向けに、委員が抱えている共通の課題や異なる地域特性を生かした活動事例に関する情報を発信するために、不定期に発行しています。